

## ■ ふるさと創造学（1年次）：地域を理解する

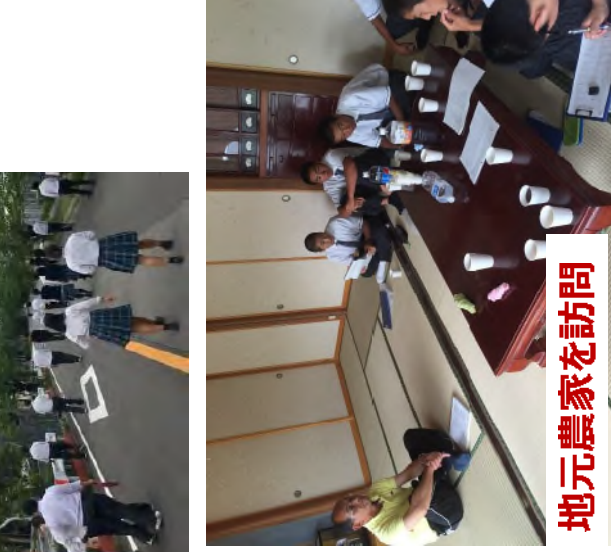
地域に実際に足を運び、地域の大人に会い、地域を体感する



帰還困難区域を歩く



津波被災地を歩く



地元農家を訪問



東京電力で議論



演劇で表現する



31

## ■ 地域の大人による「ヒューマンライブラリー」

地域の大人の人生について、取り組むプロジェクトについて話を聞いて、自分自身のテーマを検討する



人生紙芝居  
再エネに取り組む実業家



iPad  
地元のフリーランス



対話で深める



教員×生徒少人数

32

## ■ 未来創造探究（2・3年次）：ゼミ活動

「原子力災害からの復興」をテーマの中心に据え、その原因、背景、過程について探究しつつ、地域再生の実践を行う

原子力防災探究ゼミ



地域の人へ突撃インタビュー

マイ・コミュニケーション探究ゼミ



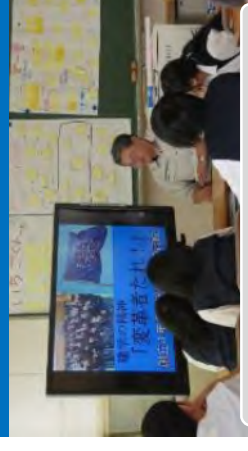
役場への訪問ヒアリング

再生可能エネルギー探究ゼミ



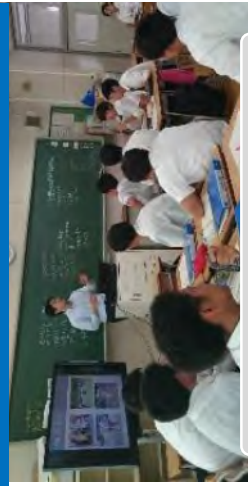
講師を呼んでの実験講座

アグリ・ビジネス探究ゼミ



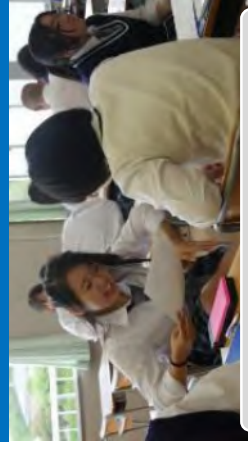
先輩のプロジェクト事例紹介

スポーツと健康探究ゼミ



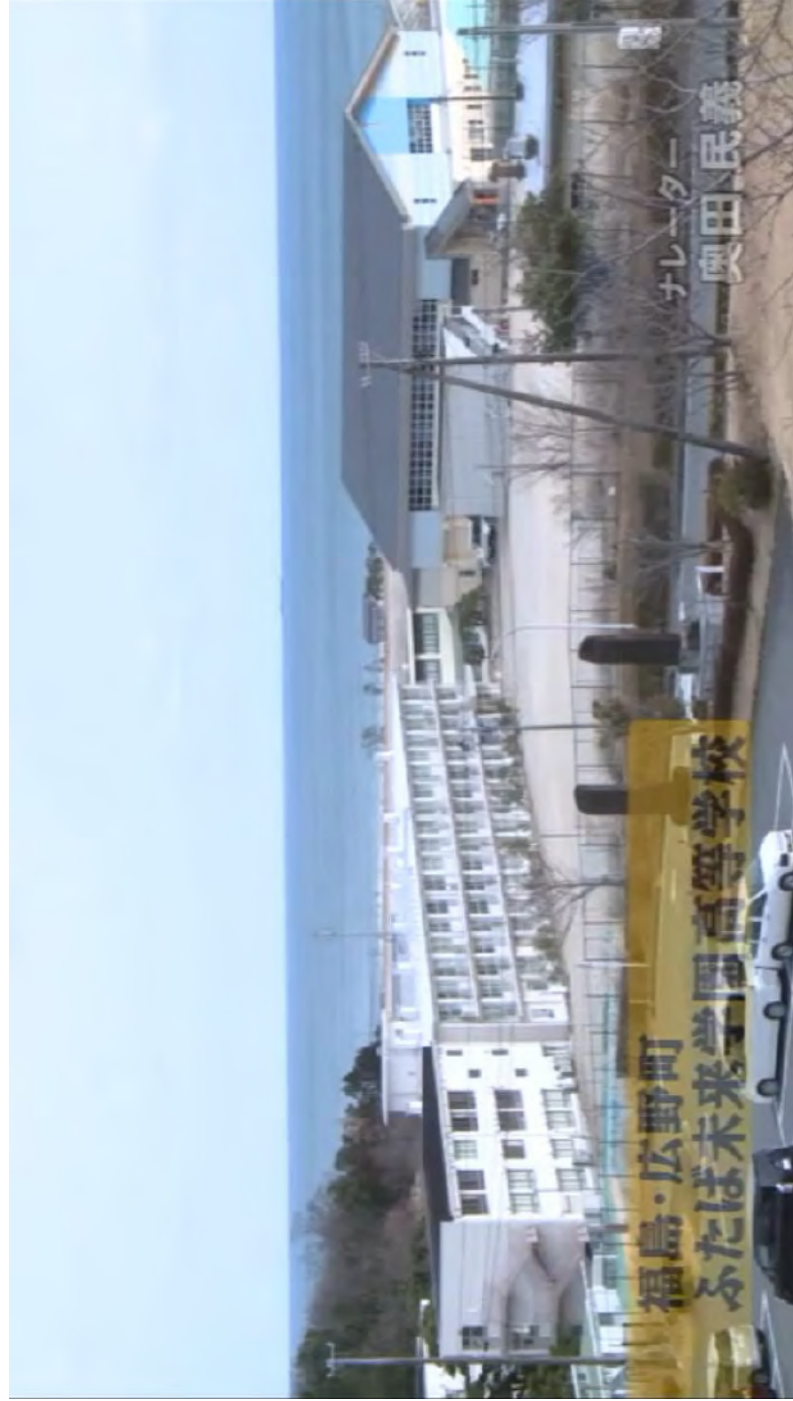
地域の方による講義

健康と福祉探究ゼミ



議論を通して考えを深める

## ■ （参考動画） 授業の様子



## ■ 地域にある様々な機会が、生徒が動き出すきっかけになる

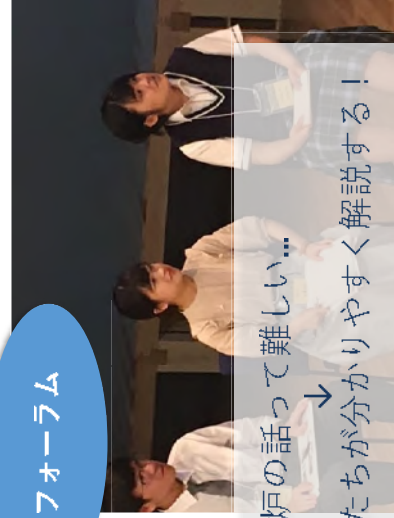


田植え  
イベント



一参加者から、運営側に加わり、  
地域のイベントを企画・運営

### フォーラム

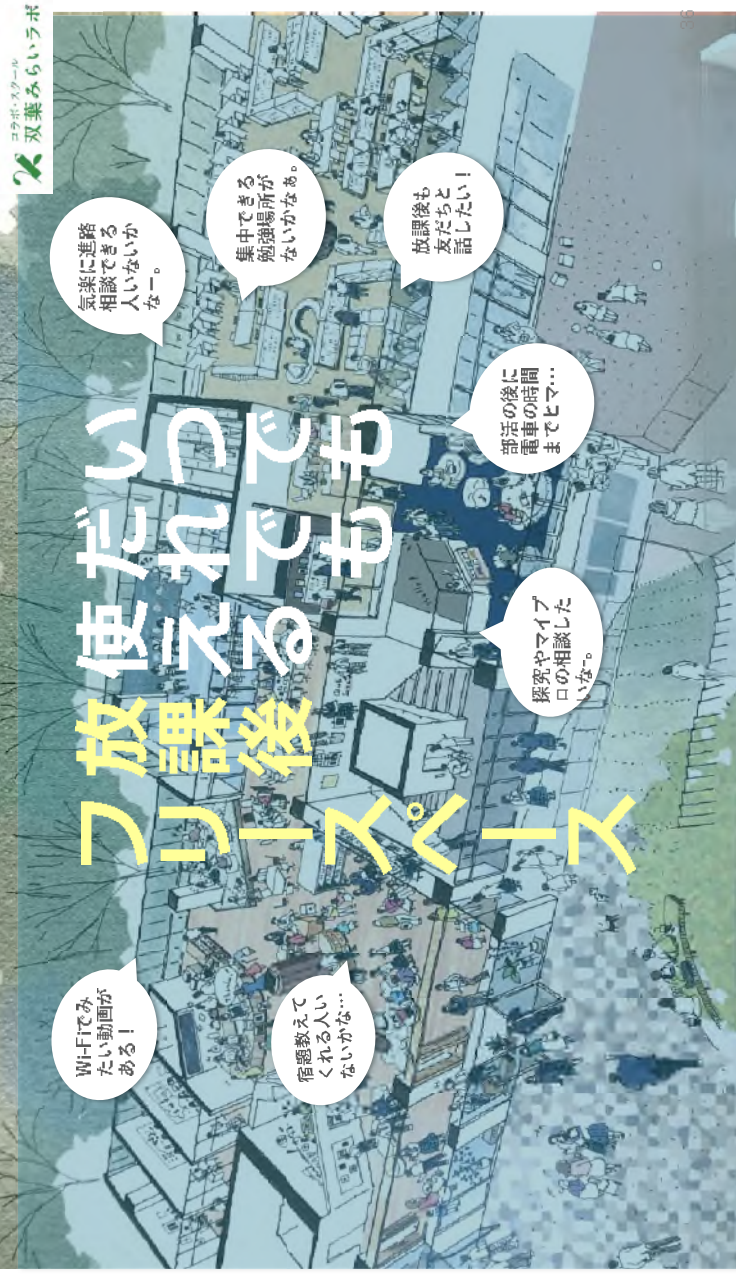


廃炉の話って難しい...  
↓  
だったら、私たちが分かりやすく解説する！



## ■ 地域との協働を日常へ。校内の仕掛け

ナナメの関係に溢れた、自分の未来を創るための実験の場  
双葉みらいラボ～地域協働スペース～



## ■ 校内カフェを起点に、地域と学校との協働を進める



37

## ■ 放課後や土日などを活用、自主的に打合せを実施



マルシエの仕掛け人である地域の大人  
(プロジェクトの「協力者」)

地域青空市場 (マルシエ) の  
活性化に取り組む生徒

ゼミやプロジェクト担当の先生  
(プロジェクトの「伴走者」)

学校と地域を対話的につなぐ  
コーディネーター

38

38



# ■ 生徒の探究プロセスに対応した指導法の研究

## 生徒の学びの姿勢

「学びの準備」  
探究に対する学び  
の意欲を高める

「守」：受容的な姿勢  
正確に物事を知り  
探究の基礎を作る

「破」：生成的な姿勢  
柔軟に他の問題と繋げたり  
想像力を働かせる

「離」：持続的に取り組む姿勢  
リスクを恐れずチャレンジ  
実践を連鎖させる

## 教員の関わり方

モチベーター  
(探究心に火を灯す)  
・意欲に火を灯すコミュニケーション  
・外部のイベント参加

インストラクター  
(現状を正しく捉えさせる)  
・知識のレクチャー  
・調査研究 (書籍/WEB/インタビューなど)

ファシリテーター  
(問いを立てて引き出す)  
・問いを通してテーマを深化させる  
・生徒自身が本当に取り組みたい実践を引き出す

メンター  
(応援・勇気づけをする)  
・実践への勇気づけ  
・実践後の振り返り (リフレクション)

# ■ プロジェクトテーマをもとに進路を決める生徒たち



## ▼ FMふたばプロジェクト

### ○プロジェクト内容

- ・町の協力を得て、青空市「ファーマーズマーケット」を開催
- ・地域と一体となり、地元の野菜を販売
- ・地産地消を通して、原発事故の風評払拭を発信

### ○現在の進路

- ・自らの取り組みを受験で語り、福島大学行政政策学類に進学
- ・農業を軸に、住民参画型のまちづくりを研究中
- ・将来は双葉郡に戻り、同級生と共に会社設立を目指している



## 【校内に溢れる40~50のプロジェクトたち】(抜粋)



▼双葉郡の「今」を知る  
双葉郡ツアープロジェクト



▼地元の食材を使った橋脚の  
小中学校向け給食開発プロジェクト



▼浪江町子どもと高齢者の交流機会を  
通じた、健康寿命向上プロジェクト



▼高校生視点で課題語る  
原研座談会プロジェクト



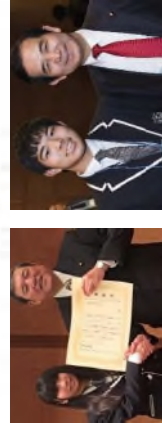
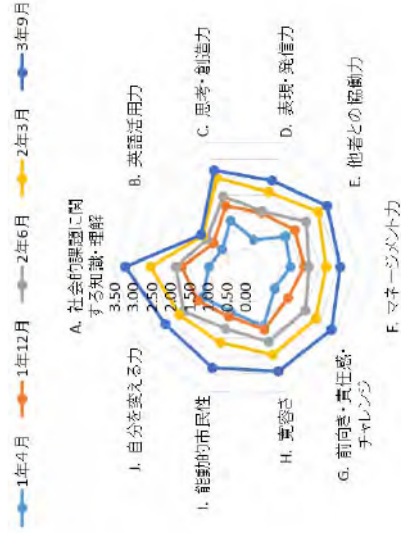
▼地域の人と共に双葉郡を盛り上げる  
田んぼアートプロジェクト

## ■ 生徒たちの成長

○ルーブリックの各資質・能力についての自己評価

生徒たちは半年に1回、ルーブリックの各資質・能力について自己評価を実施。年度当初、全教員が「育成したい能力」として共通認識を強く持った「寛容さ、他者を大切に思う心」に沿う形で表出しており、本校生徒に対峙してきた教員の姿勢が如実に表れているとみることができ

る。ルーブリック調査（2期生平均）



四年制大学 67名（国公立大学11名）  
 福島県立医科大学、東北大学、福島大学（4）、筑波大学  
 （2）、立教大学（3）、明治大学（2）、津田塾大学、青山  
 学院大学、中央大学、法政大学、立命館大学 等  
 短期大学 8名  
 山形県立米沢女子短期大学、いわき短期大学 等  
 専修学校 39名  
 磐城共立高等看護学院 等  
 就職 32名  
 県内（11）、県外15、プロ・実業団（6）  
 海外留学（サッカー）3名  
 その他 2名

○2期生へのアンケート

・活動を入社試験や入学試験に活用したか？

→62%

・社会とどう関わっていきたいかを見出すことに繋がったか？

→80%

・自分の価値観を考えることに繋がったか？

→87%

「探究学習」が進路選択やキャリア形成に影響を与える

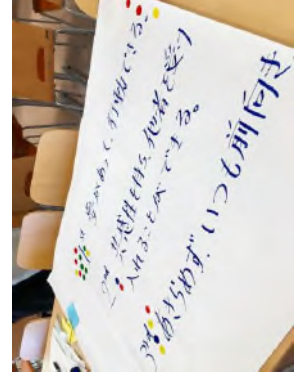
43

## ■ 開校して5年、2020年当時の取組

- ・地域と協働することの調整に追われる**疲弊感**。
- ・地域のイベントに引っ張りだこになり**学習に集中できない生徒**。
- ・本当は創造的な活動を推進したい。でも、**生徒の貸し借りに終始**。



- ・**生徒の学びを中心に据えて、「探究学習」を磨く**
- ・その過程の中で、**地域と高校との協働のポイントを模索**
- ・教員も入れ替わる中、「ルーブリックの見直し」= **どんな生徒を育てていきたいのかの「目指すべき目標」を再度、議論**することに取り組む



44

2021年頃までの1つの学校のストーリー  
開校した2015年から1つ1つを丁寧に吟味して  
組織（学校）づくりを進めてきました

## 【2つ目の問い】

ふたば未来学園の組織づくりから、  
自校に活かせそうなことは何でしょうか？



## ふたば未来学園の全体像

- 1、【建学の精神・理念】：新しい生き方・新しい社会の建設
- 2、【教育目標】：変革者たれ
- 3、【資質・能力】：自立・協働・創造
- 4、【ルーブリック】：知識・技能・人格・メタ認知
- 5、【カリキュラム】：未来創造探究・各教科学習
- 6、【教員体制】：企画研究開発部・6つのゼミ・教科チーム
- 7、【各ゼミ計画】：授業設計
- 8、【教材】：全体教材・各ゼミ教材
- 9、【指導法】：生徒への関わり方
- 10、【外部活用】：地域・講師・コーディネーター・課外活動

47

## 組織開発の対象

- 「外的環境・ミッション・ストラテジー・リーダーシップ・文化・構造・情報と報酬システム・仕事の方針や進め方などの組織内のさまざまな次元間の**一貫性**を高める」(バーク&ブラッドフォード)

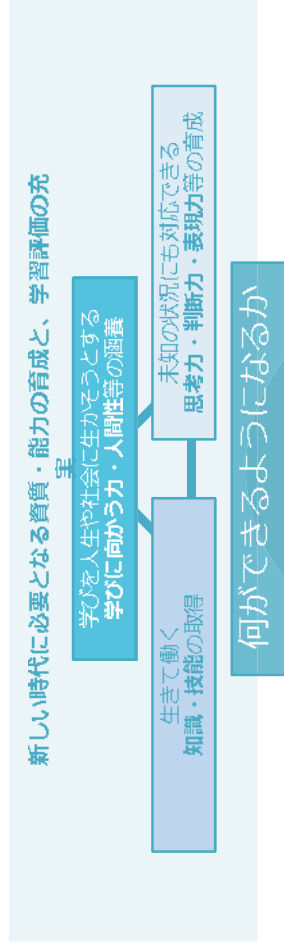
### コンテンツ

- 1、【建学の精神・理念】：新しい生き方・新しい社会の建設
- 2、【教育目標】：変革者たれ
- 3、【資質・能力】：自立・協働・創造
- 4、【ルーブリック】：知識・技能・人格・メタ認知
- 5、【カリキュラム】：未来創造探究・各教科学習
- 6、【教員体制】：企画研究開発部・6つのゼミ・教科チーム
- 7、【各ゼミ計画】：授業設計
- 8、【教材】：全体教材・各ゼミ教材
- 9、【指導法】：生徒への関わり方
- 10、【外部活用】：地域・講師・コーディネーター・課外活動

### プロセス

**一貫性・一貫性**  
**組織はエコシステム**

# 学習指導要領「社会に開かれた教育課程」



よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む  
**「社会に開かれた教育課程」**の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

## 何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた  
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

- 小学校の外国語教育の教科化、高校の新必修科目「公共」、見直された必修科目「地理総合／歴史総合」、**「総合的な探究の時間」**、新選択科目「理数探究」など
- 各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す
- 学習内容の削減は行わない

## どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）  
の視点からの学習過程の改善

- 生きて働く知識・技能の取得など新しい時代に求められる資質・能力を育成
- 知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善



出典 | 中央教育審議会教育課程企画特別会資料  
49

# 学習指導要領「社会に開かれた教育課程」

## 社会に開かれた教育課程の理念

- ① 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、**よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標**を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。
- ② これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために**求められる資質・能力とは何か**を、教育課程において**明確化し育んでいく**こと。
- ③ 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に限らずに、その**目指すところを社会と共有・連携しながら実現**させること。

**目標 × 資質・能力 × 教育課程 × 組織体制 × 外部活用**

一貫性を支える組織をどう作るか？  
私たちにできることは何でしょうか？

### 【3つ目の問い】

ここまでの話を受けて、  
事務職員である私たちに  
何ができそうでしょうか？

## 社会に開かれた教育課程を実現させる 学校の組織づくり

1. 「より良い組織」について考える
2. 「より良い組織づくり」の事例共有①  
～福島県立ふたば未来学園高等学校～
3. 「より良い組織づくり」の事例共有②  
～島根県教育委員会～
4. まとめ

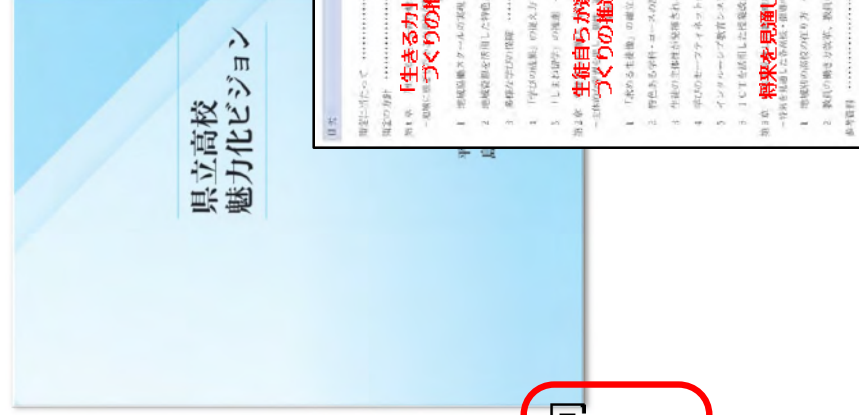
### 「県立高校魅力化ビジョン」

県立高校魅力化ビジョンの策定  
(平成31年2月)

「地域社会との協働による  
魅力ある高校づくり」

2020年代の教育の基本的な方向  
性と直近5年間(2019-2023)  
の具体的な取組を示したもの

※島根県の県立高校の状況+国の教育改革の  
動向を踏まえて策定



## 令和6年度末

(新学習指導要領による新大学入試の年 = 教育魅力化ビジョン・学力育成プラン・学力育成プラン・島根創生計画(終了年))

- ・ **各学校のグランドデザイン (スクール・ポリシー) の実現**
- ・ **学力育成プランの目標達成**

- ① **主体性・探究性・協働性・社会性** (※高校魅力化評価システム)
  - ・ 地域の課題の解決方法について考える生徒の割合 [R2] 54.9% → [R6] 70.0%
  - ・ 活動、学習内容について生徒同士で話し合っていると思う生徒の割合 [R2] 86.7% → [R6] 95.0%
  - ・ 授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ物を行った生徒の割合 [R2] 59.7% → [R6] 70.0%
- ② **自立的な学習行動・学習時間** (※授業外の平均学習時間等)
  - ・ 家で書で誰かに言われなくても自分から勉強する生徒の割合 [R2] 75.7% → [R6] 80.0%
  - ・ 生徒が学校の授業時間以外に、普段 (月～金) 1日あたり勉強する平均時間 [R2] - → [R6] 2h15m
- ・ **意志ある進路希望の実現** (※県内大学等への進路希望を実現できる生徒数等)

### 〇年次スケジュール

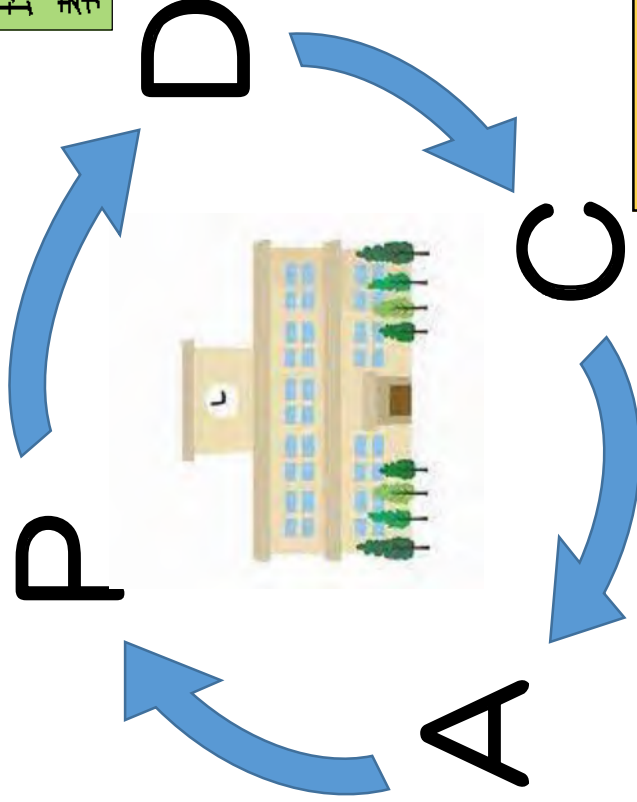
	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)
省令等改正		高1新学習指導要領開始	高2新学習指導要領	高3新学習指導要領 新大学入試 (注1注2)
グランドデザインに基づき ・新カリキュラム設計 ・コンソーシアムの設置・再構築 ・県の体制・事業・業務見直し等		・高1新カリキュラム ・一人一台端末開始 (高1)	・高2新カリキュラム -探究 (大学連携/教科連携等)	・高3新カリキュラム -新入試の実施
			<b>【県教委が果たすべき役割】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県教委の現場への伴走支援 (教職員・学校の課題解決・コンソーシアムのPDCAサイクル支援等)</li> <li>・ 高校を越えての共学共創 (データも活用した学びあい・知見の共有活用等)</li> <li>・ オンラインプラットフォーム等での探究学習・キャリア教育支援 (地域には資源の獲得支援等) 等</li> </ul>	

55

## グランドデザイン

※グランドデザイン実現に係る評価指標を設定

- ・ A指標：進路実績や資格等に関すること
- ・ B指標：学びに向かう姿勢・意欲に関すること



次年度の学校経営  
計画への反映

学校評価  
高校魅力化アンケート等

地域と協働した  
教育課程

56

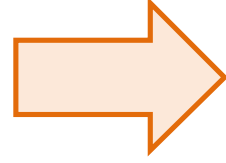
## (参考) 高校魅力化評価システム

学校のPDCAサイクルに、評価の仕組みを組み込む

💡 生徒と学校・地域の**現状** (強み・弱み) が見える

💡 生徒と学校・地域の**変化**が見える

💡 生徒の変化と学校・地域の活動の**繋がり**が見える



伸ばしたい、改善したい、次の一歩

目標の設定や成果の把握の手がかり

「意志」にもとづく判断を「支える」のが評価システム

## (参考) 高校魅力化評価システム活用研修

令和4年度島根県  
高校魅力化アンケート活用研修

令和4年8月5日(金)

「育てたい生徒像」等に基づいて、生徒の資質・能力の育ちを確認

The screenshot shows a table with multiple columns and rows of data. The columns are labeled with various metrics, and the rows contain numerical values. The table is part of a presentation slide, and the data appears to be related to student evaluation results.

・ 「地域貢献意識」「社会夢画意識」とともに、学年を際ると伸び

- ・ 特に、「将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい」「地域や社会での問題やできごとに関心がある」が、1年生～2年生の間で大きく伸び
- ・ さらに、「私が関わることで、社会状況が変えられるかもしれない」が、2年生～3年生の間で大きく伸び

→ こうした伸びを支えた教育実践として何が考えられそうでしょうか？

・ 一方で、今年度入学生生の数値は、昨年度入学生（現2年生）と比べてやや低い

→ 現状を踏まえて、今後の教育実践としてどういった工夫が考えられそうでしょうか？

The screenshot shows a presentation slide titled "【重要】羅針盤の確認". The main text discusses evaluation results and the importance of the "compass" (evaluation system). Below the text, there are two sections labeled "事前ワーク1-2" (Pre-work 1-2). The first section asks for a list of evaluation results and a list of evaluation items. The second section asks for a list of evaluation items and a list of evaluation results. The slide also includes a logo for MUFG.

# R5年度グランドデザインの実現に向けた研修体系

## グランドデザイン

### 新教育課程デザイン研修 (高校S)

目的	新学習指導要領に基づく学習指導の実現に向けた校内体制を構築するため、新教育課程デザインの中核を担う教員の教育的見識と指導力の充実にを図る。
対象	主幹教諭 + 教務主任 (主幹未担任者は教頭 + 教務主任)
概要 (予定)	5月【オンライン】 主幹教諭の業務確認 + 教材・マゼンタ計画作成 ほか 8月【集合型】 新学習指導要領等に関する課題共有・意見交換 ほか
伴走支援	各教科指導主事 (高校S + 地域室ほか) の学校訪問の際などに伴走支援を行う

### 探究学習担当者研修 (地域室)

探究学習の充実に向けた研修 (年3回) ※うち1回は探究フェスタ内	・ 探究推進担当者 + 主幹教諭が主な対象 ・ 探究指導主事による年2回の学校訪問
授業改善研修 (高校S/教育C)	ICT活用も含めた授業改善研修 (感性) ・ 教科ごとに実施 ・ R5年度は3年番者の最終年度

### ICT活用リーダー研修 (高校S)

各校のICT活用リーダー向けの研修 (年3回)	・ 1人1台端末の活用事例などを共有 ほか
-------------------------	-----------------------

### 魅力化評価研修 (地域室)

魅力化アンケートの読み解きや活用方法に関する研修 (年1回)

### グランドデザインPDCA研修 (地域室)

～地域との協働体制(コンソ)を生かしたテーマの推進～

目的	グランドデザインにもとづく魅力化のPDCAサイクルをコンソーシアム等の協働体制を活かして構築するプロセスを学ぶことで、知見を共有し、各校の取組を推進する。高校の地域協働体制を活かしたPDCA構築の中核メンバー [管理職及び主幹教諭、市町村担当者、コンソ運営マネージャー、コーディネーター。コンソ関係者等が3人チームで参加]
対象	5月【オンライン】 グランドデザイン実現に向けた重点取組の設定 10月【集合型(1日)】 他地域の事例発表や他校との協議 2月【オンライン】 重点取組に向けた取組・課題等の事例発表
概要 (予定)	各コンソの重点取組テーマに関するミニ研修 (任意参加) を3回の研修の間に設定しながら伴走支援を行う

### 地域との協働体制構築・運営研修 (地域室)

学校運営協議会等の協働体制の構築・運営に関する研修  
・ 年1回研修 (オンライン)  
・ 各校のコンソ担当者が主な対象

### 働き方改革挑戦校向け研修 (企画課)

挑戦校(20校程度※義務含めて)の業務改善に向けた研修  
・ 年間5回にわたる研修 + 個別支援 (90分)  
※ これとは別に任意の座談会による事例共有もあり

### コーディネーター研修 (地域室)

県内のコーディネーター向けの研修 (年2回)  
・ 各コーディネーターの活動事例などを共有 ほか

## グランドデザインPDCA研修 ～地域との協働体制(コンソーシアム)を生かしたテーマの推進～

### ■ 目的

- グランドデザインの実現に向け、重点的取組を設定し、コンソーシアム等の協働体制を活かして解決できる方法を検討する。
- また、重点的取組に向き合うこと (PDCAサイクルを回すこと) を通じて、そのテーマにおける「あるべきコンソーシアム」の形を模索すると共に、そのプロセスを通じてコンソーシアムを強固なものとし、自走できるチームへと進化させる。

### ■ 取組内容

取組内容	対象	詳細	実施形態
グランドデザインPDCA研修	各コンソーシアムの 中核メンバー (3人のコアチーム)	・ 年3回の全コンソーシアムを対象としたPBL型の研修の実施 ※「高校魅力化ルーブリック」を活用し、現状評価と目標設定を行う ※重点的取組を設定し、PDCAサイクルを回す支援を行う	年3回 (半日・1日・半日) ※1日程のみ対面開催
テーマ推進ミーティング (ミニ研修)	各コンソーシアムの 中核メンバー (1名でも参加可) ※任意参加 ※各回2～3のコンソーシアムの参加を想定	・ 県が重視するテーマや各コンソーシアムのニーズに沿ったテーマに関するミーティング (ミニ研修) の実施 ※テーマは、高大連携、産業界連携、卒業生還流等を想定 (詳細、次回) ※各テーマにおける専門アドバイザーを派遣し、議論を深める ・ 必要に応じて、各テーマにおけるコンソーシアムの活動のヒアリングを行い、レポートにまとめる (コンソーシアムの実態調査)	2テーマ×年2回 (1.5～2時間/回) ※全てオンライン開催

### ■ 年間計画

取組内容	4～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
グランドデザインPDCA研修	<b>研修①</b> ○オンライン開催 ・ PDCAサイクルとは? ・ 今年度の進め方の確認 ・ 重点的取組の設定	<b>研修②</b> ○対面開催 ・ 事例共有 ・ 中間振り返り ※高校魅力化ルーブリックによる自己検、課題設定	<b>研修③</b> ○オンライン開催 ・ 事例発表 ・ 年度振り返り ・ 次年度目標設定	
テーマ推進ミーティング (ミニ研修)	テーマA 1回目 テーマB 1回目	テーマA 1回目 テーマB 1回目	テーマA 2回目 テーマB 2回目	テーマA 2回目 テーマB 2回目